

唐丹希望基金を巡る奇跡の数々

唐丹希望基金副代表 堀泰雄

2011年4月に岩手県の高館千枝子さんが始めた唐丹希望基金（釜石市唐丹町の子ども130人を支援する会）には、数々の奇跡が起こっている。その数々を書いてみよう。

第1の奇跡

それは高館千枝子さん、そのものの存在の奇跡である。あの大災害が起こった時に、誰もが、何かしたいとは、思ったはずである。しかし、その99.9%は、日赤への寄付で「支援した」と、自分を満足させて後は傍観しているだけである。高館さんは沿岸部に住む親せきなどへの支援を始めたが、「自分の関係者だけを支援していればよいのか」と自問して、わずかなつながりのあった唐丹町の子ども130人全員を支援する運動を始めたのだ。高館さんがキリスト教主義の学校に36年間勤務したことは大いに関係があると思うが、それだけでない「神性」が高館さんの中にあっただからだというほかはない。

第2の奇跡

唐丹中学校校長藤館さんとの出会いである。高館さんが支援したいと言っても、こういうものを行政は、なかなか受け入れたがらないものである。唐丹には、河東真澄さんというもと釜石市の教育長をした人がいた。この人が受け入れに積極的で、それに応えるように当時の中学校校長の藤館さんが受け入れてくれて、学校を通しての支援金の受け入れや配分に力を貸してくれた。

第3の奇跡

毎日新聞記者山田さんとの出会いである。6月に高館さんが唐丹中学校を訪問した時に、大阪から派遣されていた毎日新聞の若い記者山田尚弘さんがいた。高館さんの必死の要請に心を動かされ、6月29日の夕刊に大きな記事になり、これがこの運動の全国展開へのきっかけとなった。この時山田さんと高館さんが出会わなかったら、山田さんがボンクラな記者だったら、本社の編集部が載せる決断をしなかったら、運動は数か月で悲しい結末を迎えていたであろう。

第4の奇跡

その毎日新聞の読者に私がいたことである。私は元教員で、被災した子供の支援に関わりたと思っていた。だからこの記事は心に響き、すぐに運動に参加した。私は、エスペラントを使って、世界に震災を伝えていた。私が、エスペラントをやっていなかったら、その後の運動がエスペラント界に広がることはなく、世界にまで広がる運動にはならなかったろう。この運動にエスペラントの果たした役割は大きく、支援してくれているかなりの人がエスペランティストである。

私の働きで、唐丹支援が日本のエスペラント界に広まっただけでなく、世界に広まり、特に、堀さんが震災後3年間フランス各地を回って講演した結果、フランスからの支援金も寄せられ、またマルセーユの小学校からは子どもたちの作った作品が唐丹小学校に送られ、子どもたちの間の国際交流も行われている。

第5の奇跡

「鎮魂の歌」との出会いである。この歌は、岩手県退職校長会の手で発表され、運動が沈滞した2012年初めに、「お金が集まらないなら、せめて震災を忘れないためにこの歌の普及を」と、高館さんを元気づけ、その後の「1万人に歌ってもらう・聞いてもらう」という音楽による震災支援の道を開いた。この歌の歌詞を作った千葉さんが釜石に住み、何と初めて教師として赴任したのが唐丹小学校であったというのも、何かの因縁である。

第6の奇跡

カナダのエスペランチスト、イシュトク・サチ子さんとの出会いである。サチ子さんは、若い日にエスペラントだけを携えてカナダに渡った日系カナダ人である。私から、唐丹支援などのエスペラントによる報告を受け、それを日系人のための新聞「日加タイムズ」に転送、唐丹支援が日系カナダ人の間に知られるようになり、日系人音楽家の間で「鎮魂の歌」の演奏会が開かれるようになった。サチ子さんの友人で、アメリカに住むメリーハーツエル・節子さん指導の大正琴グループから京都の大正琴グループアンサンブルコスモス（嶋沢純子代表）に情報が寄せられ、このグループは毎月の練習をこの曲を演奏することから始めており、登録も欠かさずしている。

第7の奇跡

NHKラジオ深夜便のディレクター坂口憲一郎さんとの出会いである。多分2013年の秋のことだと思うが、岡山に住む坂口さんは、赤穂線の電車に乗ったが、空いている座席は、女性3人が座る残りの一つの席だった。その3人の女性は、エスペラントのことを楽しそうにおしゃべりし続けた。2人が降りて残った島津泰子さんに、坂口さんが話しかけ、「エスペランチストで誰か良い人を推薦してください」とお願いし、それが私につながった。

その後坂口さんは、深夜便に私を登場させようと提案したが、番組編集委員会の中にエスペラントに批判的な人がいて、計画は棚上げになったが、翌年その人が退任し、2015年1月7日に私の出演「言葉が広げる世界の絆」が決まった。その人のおかげで、その延期された1年間に私の父の戦争体験の新しい発見があり、また唐丹運動も発展して、私が話す内容が深まった。その批判的な人のおかげで、坂口さんは、唐丹のことに更に関心をもったのであろう、今度は高館千枝子さんが2016年3月3日に「世界に広がれ『鎮魂の歌』」という題で登場した。

更に2016年11月11日、今度は唐丹にハープで何回も癒しの支援をしてくれて、「I, You, We」という歌まで作ってくれたアメリカ人宣教師キャロル・サックさんが「好きなハープで心に寄り添う」という題で登場して、アメリカの教会の人達が唐丹の子どもたちにショールを送った事などを話した。（深夜便「明日への言葉」：<https://www.youtube.com/watch?v=HLYyzDDZ06o>）

第8の奇跡

俳人照井翠さんとの出会いである。私は、釜石に行くと必ず被災した書店桑畑書店に寄って本を買う。3年ほど前、桑畑さんが紹介してくれたのが照井翠さんの「龍宮」という句集だった。照井翠さんは、既に有名な新進の俳句作家だったのだが、その方面に疎い私には初めての名前だった。本は2300円もして、私はちょっと躊躇したが、桑畑さんの手前買うことにした。読んでみると、照井さんは釜石高校の国語の先生で、津波を体験した生々しい俳句であふれていた。この本は、角川書店の出版だが、ほとんど自費出版だったらしく、著者の住所が奥付のページに書いてあった。そこへ感想を書いて送ったのが始まりで、一緒に呑兵衛横丁で飲むような関係になった。今私は、照井さんの俳句と自分の写真で、2017年3月11日に、本を出版すべく準備を進めている。

第9の奇跡

朝日新聞釜石支局長山浦正敬さんとの出会いである。2016年6月、私は唐丹を訪問し、更にもう一日越喜来を訪問しようと、釜石に一泊した。夜、仮設の呑兵衛横丁で飲んでいると、隣に座っていた男性が話しかけてきた。朝日新聞釜石支局長山浦正敬さんだった。翌日、2人は一緒に越喜来を訪問し、それが朝日新聞岩手版の大きな記事になった。彼は、私の出版した「震災の遺

品」に関心を持ち、堀さんが被災地から預かってきた（拾ってきた）震災の遺品の持ち主を探そうとしていて、2017年2月には大きな記事にしようと頑張っている。

第10の奇跡

数々の人との思いもよらない出会いである。愛知県半田市の内藤恵子さんは、毎日新聞の「希望新聞」のページに被災者への食器の提供を申し出て、その食器は唐丹中学のすぐ下の美容室の女性の手に渡った。堀さんの深夜便を聞いて、唐丹希望基金の支援者になった。それを知って、私は、もともとつながりが多少あった半田市の知人を集めて食事会を持ち、内藤さんと親しくなった。

私は、2017年11月群馬県富岡市に行き、たまたま「藤井辰子絵手紙展」を見て感動し、藤井さんが半田の隣の知多市の住民だということを知り、もしかしたら内藤さんの知り合いではないかと問い合わせると、まさにそうだったのである。それがきっかけで、内藤さんは、12月17日に前橋で行われた「高館千枝子巡礼の旅群馬編」（高館さんが、支援者に感謝するために支援者のところを訪問する旅）に参加することになり、18日には、富岡を訪問、絵手紙展を提案した地元の絵手紙作家井上かずこさんとも出会うことになった。

一生懸命やっていると道が開けてくる、誰かが助けてくれる、とよく言うが、まさにそれを地で行く、というか、想像もできないような人のつながりが生まれてくるのが、この唐丹支援の運動である。この10の奇跡は、私から見たものだが、たとえば、NHKの坂口さんの目から見れば、彼がやっている古代楽器「はそう」を高館さんが高く評価し、これと「鎮魂の歌」を合わせて普及しようということになり、「はそうよ、世界へ響け！ハソウ・プロジェクト」が結成され、すでに支援者の中に4人の演奏者が生まれている。2017年6月には、カナダへの旅行も計画されていて、これは坂口さんにとっては予想もしない「奇跡的な」出来事ではないだろうか。



— ハソウ奏者 堀泰雄さん（左） 坂口憲一郎さん（右） —

私にとっては、唐丹の支援への参加が無ければ、「世界の旅人堀さんのエスペラント気ままエッセー」を6巻も毎年連続で出せることもなかったろうし、以前から書き続けてきた「Raportoj el Japanio」(日本からの報告)も、豊かな内容で連続して出せることもなかったろう。また、世界のエスペランチストにとっては、大震災のことをエスペラントで読める、唐丹の学校便りをエスペラントで読めて、日本の小学校のことを知れる、などということもなかった。そういう意味では、奇跡は、国内にとどまらず世界に及び、日本への見方、考え方なども変えていると言っても良いだろう。大袈裟に言えば、唐丹支援は世界を変えていると言えなくもない。だから、唐丹支援のお題目は、まさに「愛のあいいうえお運動」なのである。

「唐丹希望基金」は「善循環社会」を目指す
「愛のあいいうえお運動」

世の中に **あ**いの花を咲かせる運動だ。

子どもたちに **い**きる力を与える運動だ。

震災を忘れないために **う**たを広げる運動だ。

素晴らしい **え**がおを広げる運動だ。

世界に広がる **お**おきな運動だ。

唐丹の子供たちに贈るメッセージ

高館 千枝子 (岩手県矢巾町)

1月19日、日本福音ルーテル社団主催 公開講座(講師: キャロル・サックさん)に参加しました。「人生の3つの局面」を新約聖書 詩編23編を引用した1時間30分の講座でした。一生の間に、間違いなく誰もが直面する3パターン(局面)とは、どのようなものなのか。それは、いつ、どのような形で訪れ、どのような形で次の局面を迎え、その時の心理がどのように変化していくかという、人が一生のうちに経験する「魂の世界」の講義でした。一つ目の局面はすべてが順調に進み、賛美と感謝、安定に満たされ「人生が守られた状態で機能している、順境の時期」。二つ目は順境と正反対の「逆境の時期」。原因は仕事関係かもしれないし、人間関係によるものかもしれないし、病気の検査結果からくるかもしれないし、自然災害を被ったことからかもしれない・・・ありとあらゆる人間の営みの中にその原因は潜んでおり、誰にでも、いつか必ず訪れる人間の宿命でもある。三つ目の局面は新境地の世界である。何も、期待していない時に、贈り物の人生が訪れるというのです。それは、昔と同じ幸せな時期に戻ることはなく、新たな道が開かれる新境地の人生なのだと言います。暗闇の中を潜り抜ける経験をしてたどり着く所が新境地で、今までの人生より豊かでより深い人生と思えるのが“新境地”なのだ、キャロルさんは紐解きます。



リラ・プレカリア公開講座 2013/06/06 公開

<https://www.youtube.com/watch?v=jG1XBCV-FNs>

私は、詩編 23 編の 3 つの境地（順境・逆境・新境地）を 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災勃発によって唐丹希望基金が生まれ、これまでの 6 年の歩みと置き換えて考えてみました。あの苦しく、辛く、悲しい出来事を目の当たりにし、藁をもつかむ思いで募金活動を始めました。その間、何度も、募金を送れなくなりかかると、最も必要とされる奇跡的な事態が発生し、その都度、新しい仲間と出会って、活動が維持され目標の支援金を届けることができました。私自身、この経験によって震災前の人生より心がより深くなり、充実していると感じるのです。これこそ、まさに“新境地”です。心にある思いは、“出会った多くの人々への感謝”です。

そして、心に新たな思いが生まれようとしています。それは、東日本大震災という辛い経験をした唐丹の子供たちと共に「平和の創り主」になることです。のどかな唐丹の海に守られ、穏やかな生活（順境）を営んでいた唐丹の子供たちは、2011 年 3 月 11 日の震災で、突然、「逆境」の境地へ引き込まれ、どん底に落とされました。かけがえのない命、財産が奪われ、どんなにか悲しかったのでしょうか、辛かったでしょう、涙が枯れるほど日々泣き続けたことでしょうか。それは、経験した人にしかわからない、想像を絶する「逆境」を受け入れざるを得ない事態でした。

キャロルさんは語りかけます。「逆境を経験した人は、人の痛みが分かり、本当のやさしさを知っている」と。この後に訪れようとしているのが「新境地」なのだと。

それは、決して、以前の生活に戻るのではなく、暗闇の中を潜り抜ける経験をしたからこそ、今までの人生より豊かでより深い人生と思えるのが“新境地”と、静かに話します。

言い換えるならどんなことでしょうか？さあ、これから「新境地」とはいったいどんな生き方なのかを考える、「人生の旅」が始まろうとしています。私も、唐丹の子供たちと一緒に「死」を迎える最後の日まで歩む事を誓いましょう！

「I, YOU, WE」 <https://www.youtube.com/watch?v=GWB1O7Lgrt8> 2016/07/07 に公開

2016 年釜石市唐丹町片川交流会 演奏・歌：キャロル・サク（日本福音ルーテル社団）

◆山川節子

今日、「唐丹希望基金」だよりの紙版が届きました。ありがとうございます。早速、影山先生から携帯にメールが。唐丹だよりが届いた、と。堀さんの奇跡に驚きつつ、その縁が自分にも伸びているのは確かだ、と。私も堀さんとエスペラント繋がりから始まり、唐丹基金の運動に出会い参加、高館さんとの出会い、そして唐丹の人たちとも繋がり、また支援者の方たちともつながることができました。

私の周りの人たちにも伝え、この運動の輪に加わってくれる人もいて、ほんとに嬉しく思います。影山先生もその一人です。

今号、ほんとに内容がきっちり詰まって読み応えがありますね。それだけ、みなさんがやってきたことがたくさんあるということ。すごいと思います。

高館さん（教祖！？）の熱い思いから始まり、堀さんがそれに引きつけられ伴走、もうすぐ 6 年になりますが、静かにでも力強くその輪は広がっていますね。私も一緒に走ります。

メールは確かに便利だけれど、紙版の方が持ち歩けるし、人に紹介するにはいいですね。

今年もお互い、健康に注意し、活動していきましょうね。よろしくお祈りします。 山川 節子

◆「唐丹だより 2017 新年号」深見寿賀子

4 日夜遅くに読み始めて止められず一気に読んでしまいました。

皆さんのそれぞれの思いに感心しながら拝読しました。先生執筆の 10 の奇跡には人と人との繋がり、その輪の広がり、また皆さんの思いがその奇跡のどこかに関連しているのだなと 10 の奇

跡には改めて納得感動しながら拝読しました。深見

◆前橋での集い 菊池範子

私は堀さんを通じて唐丹のことを知り、2012年と2013年の12月に行われた唐丹の小中学校でのサンタルチアの集いに参加しました。

その時に一緒に給食を食べた子どもたちは去年の3月に中学校を卒業しました。

唐丹の小中学校の子どもたちと接して、ああこの子どもたちが日本の未来を作っていくのだなあとても頼もしく、そして心強く感じました。

私は自分の出来ることをしようという軽い気持ちだったのですが、高館さんのパワーの渦に吸い込まれて行くように、文京区と備前での鎮魂の歌の集いに参加したり、今回の前橋の集いにも来てしまいました。文京区や備前での集まりにはパワーのある人たちが参加していて、ここ前橋にもまたまたパワーあふれる人たちがいて、渦と渦が集まって、どんどん大きな渦巻になっていくようです。一つの出会いが更なる出会いに繋がって行くのを目の前にして、唐丹希望基金での善意の輪の繋がりが、私にとっても人との出会いから力をもらうという新たな希望となっています。

◆ザメンホフ祭の感想 宮城英子

今年のザメンホフ祭は、いつもの総会に加えて、大震災で壊滅的な被害を受けた釜石市唐丹町の子どもたちを支援しようと生まれた「唐丹希望基金」の代表の高館千枝子さんを迎え講演をしていただきました。高館さんは、スライドを使って子供たちの様子やこれまでの経過についてわかりやすく説明してくださり、今後も2020年までには続けようとみんなで確認することができました。

さらに、参加者1人1人がそれぞれ活動やボランティアなどについて報告しました。ちなみに、私の実家はあの福島第1原発の20Kmに位置する南相馬にあります。津波で家や家族を失った人や帰宅困難地域で今なお避難せざるを得ない人々が大勢います。一方、放射能と向き合い正しい知識を持ち危険ではないことを確認した人は残って故郷の復興のために働き日常生活を送っています。しかし、この膨大な放射性物質の保管場所や原発廃炉への道のりはこれから何十年、何百年と続くのだろうという不安。そしてその不安と闘いながらも生きていかなければならないという現実、決して福島だけの問題ではないということを肝に銘じておかなければならないことだと思います。そして、もう1つ、沖縄の辺野古、高江の問題も、今、最も重要な問題の1つです。私はエスペラントで世界とつながりながら、これらの問題に常に関心を持ち続けたいと思っています。会の最後に、東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」を全員で斉唱してお開きとなりました。高館さんの精力的な活動に感動と勇気もらったすばらしいザメンホフ祭でした。高館さん、ありがとうございました。 宮城英子

◆山川 節子

支援金とクリスマス慰問のお礼状を送っていただき、ありがとうございます。マグカップを持った一年生みんなの笑顔の写真、思わず私も笑顔を返してしまいました。6年生のお礼状の絵も素敵ですね。さすが、6年生、という感じ。坂口さんもいらしたんですね。もう、すっかり仲間に入られましたね。後日、届いた坂口通信に、坂口さんが報告を書かれていましたが、そのお気持ち、感動、私もとてもわかります。今年、中学校の卒業式で同じ思いを持ちました。

キャロル・サックさんのこどもたちへの思いの深さも、温かく大きな贈り物としてこどもたちに届いていることでしょう。希望基金の活動は着実に続いていきますね。 山川 節子

[東日本大震災 2011・3・11] を歌い継ぐ

♪♪♪♪...「鎮魂の歌」を歌おう...♪♪♪♪

作詞 千葉 隆男 作曲 太田代 政男

—参加登録募集(2020年まで)—

登録 Mail-Address : tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

登録 50,000 人達成に向かって

- ・日本語 <http://eec-2020.com/tinkon/5manninhukyu-japan.pdf>
- ・英語版 <http://eec-2020.com/tinkon/5manninhukyu-english.pdf>

参加者 50,000 人目標!

参加者 11,098 名
毎月末に更新予定
(2017・1・31 現在)

1月18日 嶋沢 純子 (京都アンサンブルコスモス代表)

寒波襲来で、大変寒い日でしたが、1月14日(土)13名で“鎮魂の歌”合唱しました。
登録をお願いします。

☆ 「鎮魂の歌」オーケストラ演奏

<https://www.youtube.com/watch?v=68h4iDi-fU&feature=youtu.be>

☆ 「鎮魂の歌」オーケストラバージョン楽譜

<http://eec-2020.com/tinkon/gakuhu.pdf>

☆ [楽 譜] 「鎮魂の歌」日本語版 ([.pdf requiem-japanese へのリンク](#))

「鎮魂の歌」エスペラント版 ([.pdf requiem-esperanto へのリンク](#))

「鎮魂の歌」二部合唱譜 ([.pdf requiem-japanese-two-parts へのリンク](#))

「鎮魂の歌」ピアノ伴奏付き楽譜([.pdf requiem000 へのリンク](#))

☆ 初音ミクが歌う「鎮魂の歌」

日本語版 http://youtu.be/9inykwxk_CU (YouTube)

エスペラント版 http://youtu.be/07MY6_22nww (YouTube)

☆ 登録と共に「鎮魂の歌」演奏者から届いた動画 (2012年10月以降の資料から)

☆ 「鎮魂の歌」オカリナ演奏: 庄子春治 http://www.youtube.com/watch?v=HpD_xHfmeA

☆ サカイカラオケ教室「鎮魂の歌」: 酒井清雄 <http://www.youtube.com/watch?v=SFvrPS5eslY>

- ☆「鎮魂の歌」カラオケ版：酒井清雄 <http://www.youtube.com/watch?v=TXYGr7Fj38A>
- ☆「鎮魂の歌」大正琴演奏：カナダ、Mary Hirtzel <http://youtu.be/XNQ0t4XHei8>
- ☆京都から“鎮魂の歌”届けます：嶋澤純子 <http://www.youtube.com/watch?v=r5avvAVG0IE>
2013年3月9日演奏：<http://www.youtube.com/watch?v=S3w7w5zvjv0>
2013年4月13日演奏：<http://www.youtube.com/watch?v=NN7DIQJCuxA>
- ☆「鎮魂の歌」2012年2月～3月のリレー演奏：牧野三男 <http://youtu.be/I8lVEFlzInE>
・男声合唱団コールM鎮魂の祈りコンサート <http://www.youtube.com/watch?v=DNXZ180uNGc>
- ☆USA ミシガン州フリモント Community choir：<http://www.youtube.com/watch?v=EPbmruiX3H8>
- ☆メリー・ハーツエル（カナダ在住）：英語歌詞版譜 [.pdf requiem_english_music2013_4_22](#)
- ☆第2回山岸ルツ子東日本大震災チャリティーコンサート（会場：カナダ バンクーバー クライスト・チャーチ大聖堂）<http://www.youtube.com/watch?v=BLHrQIYoKnY&feature=youtu.be>
- ☆東日本大震災復興支援コンサート「思い出を彩る心の歌」平塚中央公民館大ホール（代表：岩崎由紀子）
<http://youtu.be/GhgS8bQ8Nn4>
- ☆【GUMI】東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」：<https://www.youtube.com/watch?v=9IDmSeWG8Rc>
- ☆男声合唱団コールM第35回定期演奏会 指揮：太田代政男東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」
昭和8年三陸大津波「復興の歌」<http://www.youtube.com/watch?v=ifeCThRq-Is>
- ☆Megpoid English による「鎮魂の歌（エスペラント）」：ROKMSAI <http://youtu.be/ubFqipTIFrg>
- ☆[GUMI] "Rekviemo" al la viktimoj de la Granda Tertremo en la Orienta Japanio
<http://www.nicovideo.jp/watch/sm21232471>

☆ 歌ソロサロン、第2回お披露目会：2013年8月2日 会場：Mount Olivet Lutheran Church, North Vancouver

歌：トニー古森・トランペット：前田卓哉・ピアノ：前田多枝

<http://www.youtube.com/watch?v=wa79Tf9lyFw>

☆3月16日に城陽市で開催されました“大正琴の祭典”での鎮魂の歌の模様をお送りいたします。

<http://www.youtube.com/watch?v=cKR4HcltFyo>

☆アンサンブルコスモス -鎮魂の歌-2014/11/8

<https://www.youtube.com/watch?v=HgtwAoaDnUc>

☆アンサンブルコスモス -鎮魂の歌-2014/12/13

<https://www.youtube.com/watch?v=ohC6RnnTvG4>

☆「鎮魂の歌」釜石市唐丹町盛岩寺演奏、横浜演奏 牧野 三男 2015年7月28日

- ・ <http://youtu.be/vfiqSJchsdQ>（盛岩寺演奏）
- ・ <http://youtu.be/yjWkdUVgTUU>（横浜エスペラント会：日本語）
- ・ <http://youtu.be/axl0C60IiZk>（横浜エスペラント会：エスペラント語）
- ・ 3曲まとめたものは

<http://esperas.info/index.php?QBlog-20150727-2> に載せました。

☆「鎮魂の歌」Esperanto版“Rekviemo”

指揮：牧野三男 演奏：ハマロンド歌唱グループ

https://youtu.be/FYy_khGt_Xk

☆京都 歌声コスモス「鎮魂の歌」（2016年4月8日）

KinkoMusicSchool：<https://www.youtube.com/user/KinkoMusicSchool>

☆コカリナ鳩の会「鎮魂の歌」道城 義子：滋賀県近江八幡市（2016年5月31日）

<https://m.youtube.com/watch?v=r8biU--GLcI>

☆エスペラントで歌う日本の歌 第102回日本エスペラント大会（仙台）分科会より 指揮：牧野三男（2016年6月10日）

<https://youtu.be/1axfoXiuBtA>

☆キャロル・サック：唐丹の子供達へ歌のプレゼント “I, You, We” (2016年7月7日)

<https://www.youtube.com/watch?v=GWBIO7Lgrt8&feature=youtu.be>

☆盛岡市長善寺仏教婦人会「鎮魂の歌」 製作 群馬県新生会 柳沢智弘 (2016年8月29日公開)

<https://www.youtube.com/watch?v=zT1VfUrRe-4&feature=youtu.be>

☆世界へ広げられ「鎮魂の歌」 製作 群馬県新生会 柳沢智弘 (2016年9月5日公開)

「鎮魂の歌」プロローグ <https://youtu.be/xFzdo7Ur3Ig>

「鎮魂の歌」エンドロール <https://youtu.be/zJUImScNkGI>

「鎮魂の歌」リレー映像14曲 https://youtu.be/XAN_P97ieag

☆「鎮魂の歌」オーケストラバージョン (アレンジャー：三輪景章) (2016年10月26日公開)

<https://www.youtube.com/watch?v=68h4iDi-fU&feature=youtu.be>

☆備前交流会「鎮魂の歌」(2016年10月28日公開)

<https://youtu.be/EgR04TMw8S0>

東日本大震災に思いを重ねる歌シリーズ

作詞：堀泰雄 作曲：山田哲夫 歌：前橋女声合唱団

1、**「唐丹の海から世界へ」** “De la maro de Tooni al la tuta mondo”

https://www.youtube.com/watch?v=oCf_c7okiQU

2、「私はもう泣かない」 <https://www.youtube.com/watch?v=DrvpbbhFcBE>

3、「希望の飲むヨーグルト」 <https://www.youtube.com/watch?v=PKnMcP0hNyU>

4、「一生懸命私は生きる」 <https://www.youtube.com/watch?v=MMOPYDXwztQ>

5、4曲公開版のリンク：<https://www.youtube.com/channel/UCGdxMHtOaBmdTXUZMMCukKg>